

## 県内経営トップ 年頭所感

付き合い方も次のステージに移りつつある。各リーダーからは現状を打破し、飛躍していかうという力強いメッセージが発信された。主なトップの言葉を紹介する。

(本紙取材班)

### 高付加価値化競う

**矢野秀弥山形丸魚会長**  
物価高が続き、当社にも消費者にも厳しい環境だが、日本が再生するチャンスと捉えらる。国民はもつと日本に自信を持つていい。価格競争から脱却し、付加価値を高める競争をすることが現状を改善する唯一の方法だ。創業70周年を迎える今年、新しい山形丸魚をともに築いていこう。

### 農業振興にまい進

**折原敬一JA山形中央会長**  
農業は単に食料を生産するだけではなく、国民の命や地域の根幹を支える重要な使命を担っている。農業や地域社会を取り巻く環境は厳しく、先を見通すことは難しい。今こそ協同組合の原点に立ち返り、現場目線を大切にしながら、本県農業や農村の振興にまい進していこう。

### チャレンジ力必要

**平井康博ヤマコー社長**  
今年、ユトリアグループは80周年を迎える。これからの90年、100年と生き残っていくためには、すべてのことに興味を持ち、何事にもチャレンジする力が必要だ。今年のと「突卵(みずのとう)」のごとく、ユトリアグループも努力が実り、花が咲くものと確信している。

### 営業活動磨き上げ

**米田総一郎第一貨物社長**  
特別積み合わせ事業は昨年11月以降前年割れと厳しい。物価動向、欧米と中国の停滞予測などから非常に厳しい年となるのではないかと。社員を大切にし、採用強化に努め内製化を促進すること、地道な営業活動を徹底的にブラッシュアップすることなど足腰を鍛え、さらなる飛躍へ備えたい。

# 現状打破へ力強く

## 未来志向、行動的に

**佐藤隆彦ヤマコン社長**  
今はVUCA(予測不能)の時代と言われ、不安定で不確実な状況だ。建設業界も大変革期にあり、特に担い手確保が最大の課題。採用、ブランディング、人事戦略の3プロジェクトにより解決を目指す。社会から必要とされる企業として誇りと責任を持ち、未来志向でアクティブに挑戦する。

## 変化に対応 本格化

**加藤聡加藤総業社長**  
今年には庄内・酒田が大きな変化を迎える。上風力発電の事業化に酒田港の基地港湾化、東北公益文科大の公立化など地域課題への対応が本格化する。SDGsとカーボンニュートラルポートを事業の中心に据え、老舗企業として「不易流行」を実践する。

## 国内生産を高める

**上野隆一ウエノ社長**  
コロナ禍で最も大きな学びは、海外生産は常にカントリーリスクが付きまとうこと。困難ではあるが、新しいコイルや巻き線装置を開発し、そのコイルを顧客に買ってもらうことにより、手巻き比率が高い海外生産から国内生産へ移し、国内比率を高めることが今年の課題だ。

## 活性化へ事業展開

**加藤秀明米沢信用金庫理事長**  
今年も地元企業の経営改善と販路拡大などの本業支援、個人の財産形成のお手伝いを中心に据え、お客さまにしっかり寄り添いながら、地域活性化のためさまざまな事業展開を図る。3年後の創立100周年に向け、イルミネーションや桜の植樹を通じた地域貢献にも努めていく。

## 前向きに開拓、創造

**長沼俊一山形航空電子社長**  
不透明感が増す中、電子部品の事業環境もさらに厳しく大きく変化するだろう。何事にも常に前向きに開拓し、創造し、実践し、ものづくりを通じてグローバルにお客さまのパートナーとして貢献していく。今春の新棟竣工を機に地域とも一層連携し、その期待にしっかり応えていきたい。

## 深く考察進め挑戦

**寒河江浩一山形新聞社長**  
主筆 旧年は、おのが命や民主主義、そして身近な日常生活を守るにはどうすればいいのかなど、根源的な問いを突きつけられた。かつて経験したことのない混乱の中にあつて、新年は何が本当に大事なのか深く考察を進め、未来に希望を持って果敢に挑戦することが求められている。